

ディレクトリサービス	<input checked="" type="radio"/> スタンドアロンサーバ <input type="radio"/> Open Directory のマスター <input type="radio"/> Open Directory の複製 <input type="radio"/> ディレクトリサーバに接続
構成するサービス	<input checked="" type="checkbox"/> AFP <input type="checkbox"/> DHCP <input type="checkbox"/> DNS <input type="checkbox"/> FTP <input type="checkbox"/> iCal <input type="checkbox"/> iChat <input type="checkbox"/> MySQL <input type="checkbox"/> NAT <input type="checkbox"/> NetBoot <input type="checkbox"/> NFS <input checked="" type="checkbox"/> Open Directory <input type="checkbox"/> Podcast プロデューサー <input type="checkbox"/> QuickTime Streaming <input type="checkbox"/> RADIUS <input checked="" type="checkbox"/> SMB <input type="checkbox"/> VPN <input type="checkbox"/> Web <input type="checkbox"/> WebObjects <input type="checkbox"/> Xgrid <input type="checkbox"/> ソフトウェア・アップデート <input type="checkbox"/> プリント <input type="checkbox"/> ファイアウォール <input type="checkbox"/> メール
時間帯	最も近い都市 : [京都市-日本]
ネットワークタイム	<input checked="" type="checkbox"/> ネットワークタイムサーバを使用する : <input type="radio"/> Apple アメリカ合衆国 <input type="radio"/> Apple アジア <input type="radio"/> Apple ヨーロッパ <input checked="" type="radio"/> その他

1.4 ディスク情報

ディスクの構成

ディスク装置	ボリューム名	総容量	フォーマット	RAID	Bay
内蔵	Server HD	1TB	Mac OS 拡張(ジャーナリング)	Hardware RAID 1	1
内蔵	Server HD1	1TB	Mac OS 拡張(ジャーナリング)	Hardware RAID 1	2
内蔵	Server HD2	1TB	Mac OS 拡張(ジャーナリング)	Hot Spare	3

ハードウェア RAID *本体にハードウェア RAID カード装着の場合記入してください。

RAID セット名 : [RS1]
RAID レベル : <input type="radio"/> 拡張 JBOD <input type="radio"/> RAID0 <input checked="" type="radio"/> RAID1 <input type="radio"/> RAID0+1 <input type="radio"/> RAID5
ドライブ : <input checked="" type="checkbox"/> ベイ 1 <input checked="" type="checkbox"/> ベイ 2 <input type="checkbox"/> ベイ 3 <input checked="" type="checkbox"/> 未割り当てのドライブをスペアとして使用
ボリューム名 : [ServerHD]
フォーマット : Mac OS 拡張 (ジャーナリング)

その他特記事項

ファームウェアのバージョン	: E-1.3.2.0
ハードウェアのバージョン	: 2.00
ドライバのバージョン	: 118
拡張 ROM のバージョン	: 0018

2 基本構成図

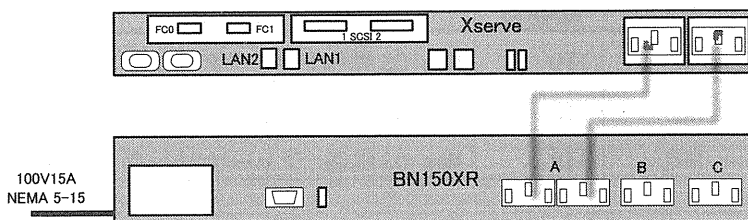
2.1 システム構成

[UPS1]

機種名:[BN150XR]

ポート	接続装置名	最大消費電力	停電後の自動再起動	遅延制御
A	Xserve 2009 Quad	334W	●する ○しない	○あり ●なし
			○する ○しない	
B			○する ○しない	○あり ○なし
			○する ○しない	
C			○する ○しない	○あり ○なし
			○する ○しない	

【接続図】



3 システム環境設定

3.1 ローカルユーザアカウント設定

[システム環境設定] □ [アカウント]

[Local 管理者アカウント]

名前	ユーザ ID	ユーザ名	パスワード
■■■■■■■■■■	■■■	■■■■■■■■■■	■■■■■■■■■■
<input checked="" type="checkbox"/> ユーザにこのコンピュータを管理 <input type="checkbox"/> ペアレンタルコントロールを使用			
詳細オプション			
ログインシェル:	[/bin/bash (既)]		
ホームディレクトリ:	[/Users■■■■■■■■■■]		
UUID:	[デフォルトの入力値 (既)]		
エイリアス:	[未入力 (既)]		
グループ			
プライマリグループ ID:	■■■	グループ名:	■■■■■■■■■■
ほかのグループ:	■■■■■■■■■■		

[グループ]

グループ名	グループ ID	メンバーシップ (所属するユーザ)
詳細オプション		
UUID:	[デフォルトの入力値 (既)]	

ログインオプション
自動ログイン: [無効]
ログイン時の表示: <input type="radio"/> ユーザのリスト (既) <input checked="" type="radio"/> 名前とパスワード
<input checked="" type="checkbox"/> 再起動、スリープ、システム終了ボタンを表示
<input type="checkbox"/> ログインウィンドウに入力メニューを表示
<input checked="" type="checkbox"/> パスワードのヒントを表示
<input checked="" type="checkbox"/> ネットワークユーザにログインを許可

3.2 ネットワーク環境設定

[システム環境設定] □ [インターネットとネットワーク] カテゴリ

ネットワーク環境 : [自動]			
サービスの順序 :			
Ethernet 1 (en0) :	<input checked="" type="checkbox"/> TCP/IP	<input type="checkbox"/> 無効	<input checked="" type="checkbox"/> 接続
Ethernet 2 (en1) :	<input checked="" type="checkbox"/> TCP/IP	<input type="checkbox"/> 無効	<input type="checkbox"/> 接続
FireWire (fw0) :	<input checked="" type="checkbox"/> TCP/IP	<input type="checkbox"/> 無効	<input type="checkbox"/> 接続
Built-in Serial Port (1) :	<input checked="" type="checkbox"/> PPP	<input type="checkbox"/> 無効	<input type="checkbox"/> 接続

サービス : [Ethernet 1 (en0)]			
TCP/IP			
IPv4 の構成 :		IPv6 の構成 :	
<input type="checkbox"/> DHCP サーバを使用 <input type="checkbox"/> DHCP サーバを使用 (手入力)		<input type="checkbox"/> 自動 <input checked="" type="checkbox"/> 切 <input type="checkbox"/> 手入力	
<input type="checkbox"/> BOOTP サーバを使用 <input checked="" type="checkbox"/> 手入力 <input type="checkbox"/> 切			
IPv4 アドレス :	[REDACTED]	ルーター :	[REDACTED]
サブネットマスク :	[REDACTED]	IPv6 アドレス :	[REDACTED]
ルーター :	[REDACTED]	プレフィックス長 :	[REDACTED]
DNS			
DNS サーバ :		検索ドメイン :	
[REDACTED]		[REDACTED]	
[REDACTED]		[REDACTED]	
WINS			
NetBIOS 名 :	[REDACTED]		
ワークグループ :	[REDACTED]		
WINS サーバ :	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]
802.1x			
<input checked="" type="checkbox"/> 無効 <input type="checkbox"/> 有効			
プロキシ			
プロキシの構成 : <input checked="" type="checkbox"/> 手入力 <input type="checkbox"/> PAC ファイルを使用			
<input type="checkbox"/> FTP プロキシ :		[REDACTED]	
<input type="checkbox"/> パスワードの必要なプロキシを使用 :		ユーザ名 :	[REDACTED]
		パスワード :	[REDACTED]
<input checked="" type="checkbox"/> Web プロキシ (HTTP) :		[REDACTED]	
<input type="checkbox"/> パスワードの必要なプロキシを使用 :		ユーザ名 :	[REDACTED]
		パスワード :	[REDACTED]
<input checked="" type="checkbox"/> 保護された Web プロキシ (HTTPS) :		[REDACTED]	
<input type="checkbox"/> パスワードの必要なプロキシを使用 :		ユーザ名 :	[REDACTED]
		パスワード :	[REDACTED]

<input type="checkbox"/> ストリーミングプロキシ (RTSP) :	[. . . :]
<input type="checkbox"/> パスワードの必要なプロキシを使用 :	ユーザ名 : [] パスワード : []
<input type="checkbox"/> SOCKS プロキシ :	[. . . :]
<input type="checkbox"/> パスワードの必要なプロキシを使用 :	ユーザ名 : [] パスワード : []
<input type="checkbox"/> Gopher プロキシ :	[. . . :]
<input type="checkbox"/> パスワードの必要なプロキシを使用 :	ユーザ名 : [] パスワード : []
<input type="checkbox"/> 自動プロキシ構成 :	プロキシ構成ファイル URL : []
<input type="checkbox"/> 簡易ホスト名を除外 プロキシ設定を使用しないホストとドメイン : [* . local, 169.254/16] <input checked="" type="checkbox"/> 受動FTPモード (PASV) を使用	

Ethernet	
Ethernet ID (MAC アドレス) :	██████████
構成 :	<input checked="" type="radio"/> 自動 <input type="radio"/> 手動
速度 :	<input type="radio"/> 自動選択 <input type="radio"/> 10baseT/UTP <input type="radio"/> 100baseTX <input checked="" type="radio"/> 1000baseT
通信方式 :	<input type="radio"/> 半二重 <input type="radio"/> 全二重 <input checked="" type="radio"/> 全二重, フロー制御
MTU :	<input checked="" type="radio"/> 標準 (1500) <input type="radio"/> ジャンボ (9000) <input type="radio"/> カスタム []

サービス : [Ethernet 2(en1)]	
TCP/IP	
IPv4 の構成 :	IPv6 の構成 :
<input checked="" type="radio"/> DHCP サーバを使用 <input type="radio"/> DHCP サーバを使用 (手入力) <input type="radio"/> BOOTP サーバを使用 <input type="radio"/> 手入力 <input type="radio"/> 切	<input type="radio"/> 自動 <input checked="" type="radio"/> 切 <input type="radio"/> 手入力
DNS	
DNS サーバ :	検索ドメイン :
[]	[]
[]	[]
WINS	
NetBIOS 名 :	[meridian]
ワークグループ :	██████████
WINS サーバ :	[. . .] [. . .] [. . .]
802.1x	
<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効	
プロキシ	
プロキシの構成 : <input checked="" type="radio"/> 手入力 <input type="radio"/> PAC ファイルを使用	
<input type="checkbox"/> FTP プロキシ :	[. . . :]
<input type="checkbox"/> パスワードの必要なプロキシを使用 :	ユーザ名 : [] パスワード : []

研究協力者

平成22年度 総括・分担研究報告書

厚生労働科学研究費補助金

地域医療基盤開発推進研究事業

4. 緩和ケア病棟に終える取り扱い症例の治療概要

研究協力者 明治国際医療大学伝統鍼灸学教室 横西 望、和辻直、篠原昭二
千里中央病院 小嶋晃義、庄村裕三

概要 平成22年7月から23年11月末の35症例（男24名、女11名）を対象として、某病院緩和ケア病棟において鍼灸治療介入の有用性の検討ならびに適応の評価を行った。個々の取り扱い患者の概要について要約した。

今回、主治医または患者本人からの依頼に対して鍼灸治療を介入した結果、著効16例（45.7%）、有効8例（22.9%）、やや有効6例（17.1%）、無効0、判定不明5例（14.3%）であった。総合すると68.6%に有効であったといえる。また、有害事象の発生頻度が治療後の倦怠感を1例訴えたのみで、3.6%と極めて低く、その程度も安静臥床で消失する軽微なものであったことから、非常に安全な治療法であるといえる。

一方、鍼灸治療の効果持続時間についてみると、鍼灸治療効果が1日以内20名（57.1%）、2日以内6名（17.1%）、3日以内2名（5.7%）から、鍼灸治療介入のタイミングは毎日あるいは1日に2回のサイクルで治療を行うことが望ましいと考えられた。このことは、緩和ケア病棟における鍼灸治療の導入の必要性を示唆するものであり、混合診療という枠組みから外して例外規定として運用することが望ましいことと考えられた。

なお、この症例概要は、データベースとしてファイルメーカーソフトを用いて変換してデータ集積にも供したものである。

20100001

<症例>61歳、男性。

<傷病>直腸癌術後、右骨盤内リンパ節転移

<目的>右骨盤内リンパ節転移による右下肢に起こった疼痛緩和を目的に主治医より依頼された。

<服薬>オキシコンチン、ガバペンを服薬、レスキューとしてオキノーム。

<東洋医学的所見>

鍼灸治療開始時、疼痛部位は右大腿外側部。所見は脈：虚、細、数、洪。舌：紅舌、無苔、瘀斑、舌下静脈怒張。皮膚全体が黒い(特に三陰交付近)、細絡あり、軽度浮腫、脳梗塞による麻痺から自足歩行できず、車いすの移動が多い事から足少陽経絡病、血ヲ証(気滞)と考え、経絡的治療にて疎通経絡・活血化ヲを目的に開始する。

<治療方法>

使用鍼：直径 0.12 mm、長さ 1.5 cm (セイリン製 5 分-02 番鍼) を使用し、刺入深度は切皮程度 (0.1~0.4 mm) とする。体調に応じて皮膚に接触するだけの鍍鍼を使用した。鍍鍼は銀製を使用。

使用経穴はその日の患者状態に応じて俠溪または地五会、内庭または陷谷、外内庭または外陷谷、行間または太衝、三陰交、血海、足三里とした。

<期間>7月1日から11月20日までの全36回行う。

<結果>我慢できないほどの痛みではないが、FS=3の痛みが治療前まで、存在していたが、第一診目の鍼灸治療直後よりFS=0となった。2~3日程度で痛みは戻っていたものの、継続的に治療していくうちに、6回目以降から常にFS=0となり、疼痛コントロールが可能になった。しかし、死前期より確認はとれなかったが「驚くほど痛く、薬をのんだ」というコメントがあったが、オキノームを使用し、痛みを消失。一日経過した時点でもFS=0の状態になり、長期間保つことができてい

た。

死前期には強い疼痛が起こる事もあったが、主治医からは服薬量を減量しても、疼痛コントロールができていたとのコメントがあった。

<本症例による鍼灸治療介入の総括>

死前期の突発的痛みが出現した以外、投薬量を増量せずに疼痛コントロールが良好であった。

初診時よりFS=3からFS=0となり、その後もNRS=0の状態が、長期期間維持された事から著効であったと判断する。

<治療開始時の状態>ターミナル中期

<転帰>11月20日に死去

20100002

〈症例〉84歳、女性。

〈傷病〉右乳癌、右上腕骨転移

〈目的〉右乳癌、骨転移による癌性疼痛の緩和を目的に行う

〈服薬〉痛み止めとして、オプソ 10mg×3

〈東洋医学的所見〉患者本人には未告知。打ち身がしやすい。昼間も痛い、夜間の方が強い痛みがする。未告知のため、なかなか治まらない痛みに対して、イライラしているようにも見える。

ゲップはよく出る。喉が良く渇く、指先を中心にしびれる。舌：淡紅・無苔・やや裂紋

脈：左虚・やや右緊、左感情やや洪、微弦から、裏虚熱、肝胃不和ととらえた。病巣上の経絡以上ととらえ、流注上にある抹消にある経穴で治療を開始する。

〈治療方法〉

使用鍼：直径 0.12 mm、長さ 1.5 cm（セイリン製 5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（0.1～0.4 mm）とする。体調に応じて皮膚に接触するだけの鍣鍼を使用した。鍣鍼は補法を目的に金鍼、瀉法を目的に銀鍼を使い分けた。

使用経穴はその日の患者状態に応じて蠡溝、三陰交、復溜、内庭、外内庭、俠溪。

追加経穴に郄門、内関を使用する。

〈期間〉7月1日から4月11日の全72回

〈結果〉初診時 NRS=4 程度の痛みが鍼灸治療後少し軽減し、夜間痛みで目を覚ますことなく寝る事ができたとのこと。1か月過ぎたころより、痛み以外に手の痺れを訴えるようになる。痛み、痺れともに鍼灸治療直後から痛みが半減したとのこと。

現在、癌は進行しているため、痛みは徐々に頻度を増し、睡眠不足となっているが、施行中または治療を受けた日の晩は痛みをあまり感じることなく眠れているとのことだった。

また、中途まで評価を FS でとっていたが、「FS=4」という言葉が口癖のようになってきたため、あえて、難しい NRS に切り替えたところ、すこし考えながらも毎回考えてから答えるように

なった。

精神的変化として、当初はスタッフとトラブルもあったが、スタッフが小まめに声掛けをすることに対応を変更。現在は対人によるストレスはなく、告知されていないため、何故ここにずっと入院していなくてはならないのだろうというストレスのみとなり、鍼灸開始時に比べても、現在は随分落ち着いたと感じている。

鍼灸治療効果時間は状態悪化に伴い短くなってきているものの、9時間から12時間は鍼灸治療しない日に比べ痛みが和らいでいる。

〈本症例による鍼灸治療介入の総括〉

1年間を総合して、NRS は治療前後で 1~2 程度の改善変化ではあった。

印象評価では、治療中または治療日の晩は睡眠に入る事ができたこともあり、やや有効であった症例である。

〈治療開始時の状態〉ターミナル中期

〈転帰〉死去(23/11/3)

20100003

<症例>93歳、男性。

<傷病>進行性の早期胃癌、肝転移

<目的>主治医により入院前から症状として現れていた坐骨神経痛に対する右下肢の疼痛緩和を目的とした。

<東洋医学的所見>

右大腿外側部痛のため、電気の走った様な強い痛み。服薬後であったため、SLR、ブラガードテストに徴候はせず、専門医にも確認したところ、徴候はそこまで出ていないとのことだった。痛みがあるとうつ伏せもしにくい。暖めると少し緩和（入浴後）。家族に対しては怒鳴る時もあった。

八綱弁証：裏虚寒、臟腑弁証：肝胃不和、経絡弁証：足少陽胆経病、気血津液弁証：気虚血虚証と考えた。経絡異常ととらえ、神経痛の流注上にある末端経穴を使用した。

<方法>

使用鍼：直径0.12mm、長さ1.5cm（セイリン製5分-02番鍼）を使用。刺入深度は切皮程度（0.1～0.4mm）とする。足三里穴には2番鍼で硬結部位に当たるよう1cm弱まで刺入した体調に応じて皮膚に接触するだけの鍣鍼を使用した。鍣鍼は補法を目的に金鍼、瀉法を目的に銀鍼を使い分けた。使用経穴はその日の患者状態に応じて内庭、外内庭、地五会、太衝、三陰交、蠡溝、陰陵泉。

<期間>7月15日から10月18日まで全18回行った。10月21日以降、不可解な発言が多かったため評価がとれないと判断し、治療を中止した。

<結果>

初診時、坐骨神経痛の痛みは波があるものの強い時はVAS=92の痛みだった。治療直後VAS=12まで減少。患者本人から鍼灸師に、喋る事は殆どなく、常に怯える表情であったが、2回目の治療時に笑顔がみられた事は良い刺激であり、1回目の

治療後から著効がみられたので非常に喜ばれていた。第三診目の早朝にVAS=70の痛みがあったものの、朝食後から痛みは消失した。その後、弱い痛みが30秒くらい痛むが、以前に比べると随分楽になったとスタッフから何度か口頭で告げられた。

しかし、身体的状態の悪化に伴いVASはとりたくないという患者からの要望もあり、FSに変更する。一度FS=4の痛みがあり、夜間睡眠がとれない事もあったが、痛みの発生時間が10秒と減少し、殆ど苦痛を訴える事はなくなった。8月末より、低栄養のため下腿浮腫が強くなった事から、浮腫に対する治療に切り替えたが、FSですら受け答えができなくなり、また、「警察を呼べ」「騙された」などと意味不明な言動が多くなったため、中止となった。中止になる以前の状態では鍼灸治療効果時間は初診時の治療直後から痛みの軽減、無痛時間の増加が認められ、2回目から治療効果時間は増加し続けた。

<本症例による鍼灸治療介入の総括>

坐骨神経痛による緩和を目的として行った。90歳を超える高齢者のため、癌に対する以外での服薬を増量は望ましくなかった。鍼灸治療開始直後からFS=4から0へと改善を認め、鍼灸治療介入以前と比較すると痛む時間の長さも改善された事から、患者本人も積極的に治療を受けたいという意思があった。

著効のみられた症例だったと言える。

<治療開始時の状態>ターミナル中期

<転帰>10月29日から意識レベル300のまま11月6日に死去される。

20100004

〈症例〉79歳、女性。

〈傷病〉右乳癌術後、左リンパ節転移乳癌再発、右腋窩リンパ節転移炎症性乳癌様再発

〈目的〉医師より右胸部前面から後面にかけての腫瘍付近の疼痛緩和を目的とする。

〈東洋医学的所見〉

患者本人から何処がどう痛いのか伝える事はなかった。

声は弱く、非常に小さい。何事にも怯えている様子。

疼痛部位は右胸部前面から後面にかけて腫瘍部位付近全体がズキズキと疼くような痛み。

脈：右関上微弦、痛みの部位より、Rt 陥谷、Rt 外陥谷、Rt 臨泣を選穴する 舌所見は、口を開けてもらえなかったためとれなかった。

八綱弁証：裏虚寒、臟腑弁証：肝脾不調・腎陰虚、経絡弁証：足陽明胃経病、気血津液弁証：気虚血瘀証と考えた。流注上から陽明経絡病ととらえ、流注上の抹消経穴でアプローチを試みた。

〈治療方法〉

使用鍼：直径 0.12 mm、長さ 1.5 cm（セイリン製 5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（0.1～0.4 mm）とする。使用経穴は三陰交、復溜、内庭、外内庭、侠溪。

〈期間〉7月19日から7月22日までの全2回。

〈結果〉評価はFSをはじめすべての評価に拒否された。しかし、第1診時には怯える仕草や不安な顔を終始していた患者であったが、第2診時に患者に笑顔を見ることができた事は重要であり、身体的苦痛が緩和された事によって、精神的苦痛の改善が得られたのではないかと考える。コミュニケーションのとれない人のために、新しい評価法を作ることが今後の課題になった。

鍼灸治療効果時間については一切分からない。

〈本症例による鍼灸治療介入の総括〉

本症例は患者本人から痛みの変化を確認する事はできなかったが、1回目と2回目では少しでも笑顔となったことから精神的変化を与える事ができたと考え、やや有効であった。

〈治療開始時の状態〉ターミナル後期

〈転帰〉7月24日死去

20100005

<症例>85歳、男性

<傷病>左肺腺癌

<目的>医師より心窩部の痛みの緩和を依頼

<東洋医学的所見>

心窩部の痛み中心に治療をすすめるが、患者とのコミュニケーションが不十分(話せない)為、治療開始前の痛みとしても「ちょっと」と指で表現する事しかできなかった。

常に、胃から何かこみ上げてくる感じがする。という事から、胃気上逆ととらえ、肝胃不和として臓腑弁証に基づき、治療を行うことにした。

脈も点滴が手首の部分でされていた為とれず。舌診ができるような状態ではなかった。

<治療期間>

7月29日に1回治療を行う

<治療方法>

使用鍼：直径0.12mm、長さ1.5cm(セイリン製5分-02番鍼)を使用し、刺入深度は切皮程度(0.1~0.4mm)とする。灸刺激は病院内での施術のため、e-Q(チュウオー製造温灸器)を使用する。温度は低温(47°C±2°C、5秒)に設定し3~4回行う。

使用経穴、毫鍼：太衝、俠溪、後溪。e-Q(47°C×3)：Th12~L2、公孫、足三里、三陰交、陰陵泉を使用する。

<結果>

回数が少ないという事もあるが、重症患者には従来の評価法NRS、VAS、FSでも評価がとれる状態ではなかった。しかし、治療直後「痛みがあるか？」の質問に対し、首を横に振っていたことから直後は痛みが消失していたと考える。鍼灸治療効果時間はいつまでかは不明である。

<本症例による鍼灸治療介入の総括>

客観的、主観的評価もできず、1度のみ治療で

あったが、僅かに鍼灸治療の効果が得られた症例と考える。

<治療開始時の状態>ターミナル後期

<転帰>8月2日(2回目予定日)に死去された。

20100006

<症例>62歳、男性

<傷病>胃癌、骨転移、大動脈周囲リンパ節転移

<目的>医師より、全身倦怠感が強いいため軽減を目的に依頼。疼痛はあるが、転移によるものか否かは不明。

<東洋医学的所見>

食事は食べたいが、逆流しやすいため、あまり摂取できない。水分も同様と医師より代返。

家族が来院。下肢の冷えが強く、浮腫が足背から下腿全体にある。

何度も会話を試みってみるが、「うん」「ああ」といった言葉しか聞くことができず、本人から何が苦痛かは聞く事は最後まで無かった。

その為、肝胃不和(逆流性)・脾腎陽虚(食欲不振・浮腫)とし、臓腑弁証に基づいた治療を開始する。

脈：数(一息6至)、沈、虚、洪、太白から公孫にかけて軟弱かつ陥凹している。

<期間>8月9日

<治療方法>

使用鍼：直径0.12mm、長さ1.5cm(セイリン製5分-02番鍼)を使用し、刺入深度は切皮程度(0.1~0.4mm)、灸刺激は病院内での施術のため、e-Q(チュウオー製造温灸器)を使用する。温度は低温(47°C±2°C、5秒)に設定とする。体調に応じて皮膚に接触するだけの鍔鍼を使用した。鍔鍼は補法を目的に金鍼、瀉法を目的に銀鍼を使い分けた。

使用経穴は毫鍼：陰陵泉、復溜、足三里、e-Q(47.5°C×3)：公孫、円皮針：Lt公孫に行う。

<結果>鍼灸治療効果は一切採取する事はできなかった。

また、後日に亡くなられたため、スタッフによる鍼灸前後での客観的変化は分からない。

<本症例による鍼灸治療介入の総括>

本症例では鍼灸治療効果は不明である。

<治療開始時の状態>ターミナル後期

<転帰>8月10日死去

20100007

〈症例〉84歳、女性

〈傷病〉右肺線癌

〈目的〉右肺線癌の胸膜癒着術後による右胸部の痛みの緩和。

〈東洋医学的所見〉

「お乳が痛い」というが、疼痛部位を確認するとだいぶ外側(胆経)部位だった。

胸膜癒着という事で肺経の障害も考えた。喉が渴きやすい。突然イライラする。顔が白い、皮と骨と思えるくらい細い。俠溪～臨泣まで軟弱・圧痛、公孫軟弱、三陰交軟弱。

八綱弁証：裏熱虚、臟腑弁証：肝腎陰虚、経絡弁証：肺経傷筋、気血津液弁証：気虚血瘀証と考え、瘀血・右足の少陽経脈病とし活血化瘀・通経を目的に臟腑弁証に基づいた治療を中心に、経絡弁証の治療を加療で行った。

〈期間〉8月12日から10月4日まで全10回行った。

〈治療方法〉

使用鍼：直径0.12mm、長さ1.5cm(セイリン製5分-02番鍼)を使用し、刺入深度は切皮程度(0.1～0.4mm)行う。

使用経穴は俠溪、外関、三陰交、中府にて治療を行う。

〈結果〉

患者は話したい事を話すが、評価になると「痛い、痛い」と何度も確認しても、はぐらかされてしまう。初診時「痛い」と言っていたが、治療直後から「痛みはない」と著効が得られた。また、数回ではあるがNRS評価でも9→2まで減少することもあった。

しかし、スタッフに対する攻撃的な発言や、円皮鍼を勝手に取り、ベッドの柵を蹴るなど、行動も攻撃的になってきたため、中止を余儀なくされた。鍼灸治療効果時間は治療を受けてから寝る時

までは楽とのこと。

〈本症例による鍼灸治療介入の総括〉

鍼灸治療は著効が得られていたが、胸膜癒着術による施行のため、痛みを完全に除痛することは難しかった。しかし、性格的問題により中止することになったが、総合的に鍼灸治療直後効果は著効であった。

〈治療開始時の状態〉ターミナル中期

〈転帰〉10月23日死去

20100008

〈症例〉78 歳、女性

〈傷病〉胃癌（胃噴門部周囲を中心に）。

〈目的〉医師からの依頼は、食欲不振としているが、もともと胃の噴門部の腫瘍のために飲食物が通りにくくなっている事を改善してほしい。

〈東洋医学的所見〉

唾液とともに胃液も上がってきたらあがってくるが下にさがる事は無い。

昆布をしゃぶる程度（固形物は吐き出す）。また、食道に何かが通過する度に背部に激痛が走ること。脈：虚・数・沈・弦、舌：薄白苔・燥、爪：白線、外関軟弱、内関軟弱、足三里硬結、太白表面軟弱、深部緊張、三陰交軟弱・圧痛、太衝表面緊張。下肢の軽度浮腫（圧痕が軽度残る）、イライラしやすい

弁証を肝胃不和とし、臓腑弁証に基づいた治療を行う。

〈期間〉8月16日から10月14日まで全12回。

〈治療方法〉

使用鍼：直径0.12mm、長さ1.5cm（セイリン製5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（0.1～0.4mm）を行った。

使用経穴は毫鍼：行間（瀉）、Lt 太衝（瀉）、蠡溝、足三里（2番鍼）を行う。

〈結果〉

初診時から痛みがNRS=10であったものが、治療直後よりNRS=0と著効があり、全身のだるさもまた、緩和することができた。2日後には徐々に戻ってくるとのことだったが、鍼灸治療を受けてから、下肢のだるさも消失し、自力で動かせることが嬉しいとのことだった。

食事中、唾液が通過するだけでNRS=10の痛みが10分以上続いていたが、治療を開始してからNRS=7の痛みが10秒程度と減少となった。しかし、祝日を挟み1週間治療期間があくと、体調は悪化。ストレスがたまり、隣室患者とのトラブルを起こしていた。

再度週2回の治療を開始する事によって、イライラした発言はなくなったが、徐々に「足を自力で動かせなくなった」、「怖い夢をみるようになった」と衰弱していった。

本症例では、鍼灸治療期間中でありながらも、治療が無くなった事によって状態悪化をみせた一例であり、一度落ちた状態のものを改善させるには難しいといえる症例であった。

〈本症例による鍼灸治療介入の総括〉

本症例はNRS=10→0と治療直後には除痛が行っていた事から、著効がみられた症例であった。また、治療期間があいたことで、鍼灸治療介入後動かせるようになった足が、再び動かせなくなったなど状態悪化していたこともあり、定期的鍼灸治療の必要性が言えた例であった。

〈治療開始時の状態〉ターミナル中期

〈転帰〉10月17日死去

20100009

<症例>67歳、男性

<傷病>食道癌、胆のう転移、左肩骨転移。

<目的>医師より、左肩骨転移による左上肢の痛みに対しての鍼灸治療を依頼された。

<所見>

左肩のどこか、どのように痛いのか等の問診に対し、「痛いだろう」と明らかに答える態度ではなかったが、医師が同意は得たということだったので開始。

三焦経、小腸経上とは思うが、「痛いから触るな」といった態度であり、また、脈も点滴のため取れず、それ以上の事は出来なかった。

<期間>8月19日、8月24日の2回

<治療方法>

使用鍼：直径0.2mm、長さ0.6mm（セイリン製円皮針）を使用し、刺入深度は0.6mmとする。

使用経穴はLt液門。

<結果>

鍼灸治療を同時に麻薬量も増加しての併用治療であった。

しかし、2度目の時に前回の感想も含め、問診をしようとする、「鍼灸治療を受けてもいいが、質問に関しては答えたくない」「今は痛くないが、痛い時は痛いに決まってるだろう！」と罵声をあびせるだけで、評価に一切協力性がみられず、何度も説明したが態度に変化はなく、研究に非協力とみて、中止とした。

<本症例による鍼灸治療介入の総括>

性格的に攻撃性が強く、また、研究に協力性がなかったため中止となった症例だった。

<治療開始時の状態>ターミナル中期

<転帰>研究中止、その後、死去

20100010

<症例>86歳、女性

<傷病>S状・上行結腸癌。右肺・骨転移

<目的>本人と医師の希望から腸蠕動を目的に行う。

<東洋医学的所見>

身体細く、皮膚はやや黒い、舌：紅舌、燥、無苔、舌下静脈怒張、

初診時より、声が弱く、低い、聞き取りにくい。耳も聞こえにくく、何度か「え？」と確認される。胸脇部に少し詰まった感じがあり、期門に圧痛。夜間はそれなりに眠れる時がある。

便秘傾向でない時は2～3日出ないとのこと。

入浴後だったため、疲労が強く多くの問診は出来なかった。

舌：淡白、白苔、嫩、舌下静脈怒張(+)やや便秘傾向。薬や看護師らによる摘便が行われていた。傾眠傾向な為、十分な問診できず。

<期間>8月26日から10月18日までの全9回行った。

<治療方法>

使用鍼：直径0.12mm、長さ1.5cm（セイリン製5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（0.1～0.4mm）、灸刺激は病院内での施術のため、e-Q（チュウオー製造温灸器）を使用する。温度は低温（47℃±2℃、5秒）に設定とする。体調に応じて皮膚に接触するだけの鍹鍼を使用した。鍹鍼は補法を目的に金鍼、瀉法を目的に銀鍼を使い分けた。

使用経穴は毫鍼：陰陵泉、復溜、足三里、e-Q（47.5℃×3）：公孫、円皮針：Lt公孫に行う。

<結果>便通は服薬等との併用により改善に向かい、中途よりL4-5のヘルニアによる右下肢後面痛に対して行う。NRS=10であったものが、回数が増えていく事で、NRS=7の痛みとなり、治療直後にはNRS=2～3程度の痛みとなった。徐々に改善傾向に向かっていた。

また、体調が悪い状態でも鍼灸を行ってほしいとスタッフに伝え、呼び戻される事もあり、鍼灸

治療を受けると痛みが緩和されていたと考えられる。

治療効果時間では治療直後は得られていたものの、どれくらい続いたか？という問いには「暫くは楽でした」と答え、詳しく聞くと「難しい」と答えてもらうことは出来なかった。

〈本症例による鍼灸治療介入の総括〉

NRS=7→2³、8→6 など治療毎でヘルニアによる痛み軽減。また鍼灸治療を西洋医学的治療と併用させたことで、腸動改善傾向であった。以上の事より本症例は有効であった。

〈治療開始時の状態〉ターミナル中期

〈転帰〉10月23日死去

家族より「呆けることなく、最後まで看とれた事で親孝行できたと思います」とのコメントがあった。

20100011

〈症例〉73歳、男性

〈傷病〉膀胱癌、多発性骨転移

〈目的〉医師よりの依頼ではなく、患者本人と鍼灸師である家族（娘）より、自分がいない時の鍼灸治療をしてほしいという事で開始する。本人の希望から「イライラ」「倦怠感」を何とかしてほしいとのこと。

〈東洋医学的所見〉

イライラしやすく、ゲップもしやすい、お腹も下しやすくなった（パウチ交換などで長時間腹部を出している事も原因の一つ）、胸のあたりが詰まった感じがする、入浴後は気持ちいいのだが、体的には酷く疲れている。

夜中2～3時に目が覚める事も度々ある。脾腎陽虚・肝鬱気滞と診断した。

初診時、入浴後であり酷く披露されていた為、補腎治療をメインで本数を数本にして治療を行う。脈：数、沈、虚、微弦。舌：暗淡白、白膩苔、怒張すこしあり。臟腑弁証に基づいた治療を行った。

〈期間〉8月30日から10月14日まで全7回

〈治療方法〉

使用鍼：直径0.12mm、長さ1.5cm（セイリン製5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（0.1～0.4mm）、灸刺激は病院内での施術のため、e-Q（チュウオー製造温灸器）を使用する。温度は低温（47℃±2℃、5秒）に設定とする。

使用経穴は毫鍼：三陰交、復溜、太溪、合谷、行間、公孫、e-Q（47.5℃×3）：足三里、時に太溪を使用した。

〈結果〉

初診時、治療直後ではあまり変化はみられなかったが、カルテ記録では次の日の朝まで楽だったとあった。前半での訴えは全身倦怠感であったが、後半ではストレスによる苛立ちを同室患者に見せてしまった事もあり、緩和を強く希望された。苛立ちが強くなる時は頭のとっぺんから何か抜けていくような感じがあるとの事だったが、治療直後の苛立ちは緩和され、「少し落ち着いて眠く

なった」と入眠する事が増えていった。鍼灸治療効果時間は治療直後から夜までには元に戻ることだった。

〈本症例による鍼灸治療介入の総括〉

患者家族に鍼灸師がいたことで、ほぼ毎日鍼灸治療をしていたことで、痛みに対して訴えるよりも、全身倦怠感、精神的ストレスを強く訴えていた。全身倦怠感に対して鍼灸治療前後で変化はなかったが、イライラなど精神的ストレスはNRS10→7、NRS=6→0と効果が得られていた事から精神的緩和に対し有効であった症例である。

〈治療開始時の状態〉ターミナル中期

〈転帰〉10月16日死去

アンケート調査では「好きな時間をかけて毎日受けてほしい」という事から、鍼灸治療を受けたことで安心感が得られていた。また、多く出現する不定愁訴に対して鍼灸治療でサポートする事で、患者の身体的のみならず、精神的苦痛を和らげていたのではないかとと言える症例だった。

20100012

〈症例〉63歳、女性 〈傷病〉左乳癌術後、肝・肺・リンパ節転移。

〈目的〉以前の化学療法による副作用（全身倦怠感など）、術後疼痛に対し、改善を目的に依頼される。

〈東洋医学的所見〉

胸脇部の張った感覚、イライラしやすい、ゲップがしやすい、肩に張った様な頑固なこりがあるという事から肝鬱気滯が強い、左脇の術後によるつっぱり感を手少陽経筋病ととらえる。冷たい飲み物を好む。便秘が多く、下剤を飲むため便秘と下痢を繰り返している。寝汗もおおい。

脈：左関上虚・洪、舌：淡紅、胖嫩、薄白苔（歯磨き時に苔をとっている）、歯痕（+）、八綱弁証：裏虚熱、臟腑弁証：肝鬱気滯・腎陰虚、経筋病：左少陽経筋病、気血津液弁証：気滯血瘀証と考え、右上肢は経筋治療、その他愁訴に対しては臟腑弁証に基づき、患者本人の希望も含め、四肢末端の経穴を使用した治療を開始する。

〈期間〉11月11日から1月24日までの全18回行う。

〈治療方法〉

使用鍼：皮膚に接触するだけの鍔鍼を使用した。鍔鍼は補法を目的に金鍼、瀉法を目的に銀鍼を使い分けた。

使用経穴は三陰交または蠡溝、復溜、外関または液門、神門を使用した。

〈評価・結果〉M.D. アンダーソン、OHQ57（11月11日～12月20日まで）、NRSを使用。

鍼灸治療前半で行われていた、左乳癌術後疼痛に対するOHQ評価（11/11～12/20）では、鍼灸治療開始前の異常所見である便秘、不眠、症状が移動する、内出血、頑固なこり、お腹の調子などが緩和された。しかし、死前期になるにつれ逆に体の冷え、温飲を好むといった陽虚所見が強く出現していた。

また、死前期に入るところに休日など治療期間があった事により、急速に悪化。

死に対する不安、恐怖が強くなり、呼吸が苦しく

なる、眠れない、イライラする、といった所見も出現し始めた。

本症例では使用鍼を患者希望により鍍鍼で行っていた。軽微刺激でも十分な結果が得られた事で、患者負担がなく緩和ができるという事を示唆する症例であった。

鍼灸治療効果時間は鍼灸治療介入から1か月の間は2~3日は楽に過ごせており、死前期では直後から夜までは楽だが、次の日から少しずつ戻ってくる。2日目の夜にはしんどくなるといった状態であった。

〈本症例による鍼灸治療介入の総括〉

患者希望により毫鍼より低刺激である鍍鍼にて行った。

左肩の痛みはOHQ57から東洋医学的状态変化が観察できた症例の一つであった。

治療期間があくことで、体調も悪化しており、鍼灸の定期的治療が必要であると考えられた。

本症例は痛みNRS1~3程度の変化が得られており有効。また抗癌剤副作用による末梢神経障害に対しては平均NRS3程度の改善が治療前後で得られていた。

〈治療開始時の状態〉ターミナル中期

〈転帰〉1月28日死去

20100013

〈症例〉72歳、男性

〈傷病〉副腎・肺・Th6~7脊椎転移。

〈目的〉医師より、麻薬を使用しても疼痛緩和が不十分なため依頼された。

〈東洋医学的所見〉

右側臥位が一番楽なため、一日の殆どがその体制。18日から、リカパセルに変更し、レスキューの回数は減ったものの痛みを訴える事がある。

足背熱感、Th6~7狭脊穴の痛み。足三里緊張、三陰交硬結、太衝緊張圧痛、Lt胆経緊張

脈：浮・遅（54回/分）・滑・右関上微弦、舌：紅舌・潤・無苔。八綱弁証：裏熱虚、臟腑弁証：腎陰虚、経絡弁証：左足少陽経絡病、気血津液弁証：血瘀証と考え、経絡弁証に基づき治療を始める。

〈期間〉11月15日から12月27日まで全8回。治療開始当初から直後より著効がみられ、NRS=0と完全に除痛が行えていた。

〈治療方法〉

使用鍼：直径0.12mm、長さ1.5cm（セイリン製5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（0.1~0.4mm）、衣服を脱がし患部を出すことができないが多かったため、背部は皮膚に接触するだけの鍍鍼を使用した。

使用経穴は毫鍼：三陰交、内庭、外内庭、俠溪、鍍鍼：Th6~7狭脊穴。

〈結果〉

三陰交、内庭、外内庭、俠溪を毫鍼、Th6~7に鍍鍼を使用する。初診時より、NRS=8の痛みがNRS=0と消失をみせた。第二診目には痛みは半減し、その後NRS=1まで緩和する事ができた。死前期にNRS=8まで痛みが増悪し、レスキューも使用するもNRS=6程度まで緩和されるだけで、効果が切れるとNRS=8まで戻り、安眠できないという状態であったが、1回の鍼灸治療にて痛みの消失効果を得る事ができ、直後から睡眠に入られていた。

本症例は、経絡上末端にある経穴に対し、軽微

刺激を行う事で、患者負担もなく、著効がみられた症例であった。

〈本症例による鍼灸治療介入の総括〉

本症例は骨転移による癌性疼痛に対して行った。服薬量を増量せず、鍼灸治療効果によって疼痛コントロールがなされていた。また、鍼灸治療を介入前後ではレスキューの使用状況もまた減少傾向にあった。

非常に著効がみられた症例であった。

〈治療開始時の状態〉ターミナル中期

〈転帰〉12月28日に死去されたが、原因は病気とは関係のない急性疾患によるものであった。

20100014

〈症例〉80歳、女性

〈傷病〉膵臓癌

〈目的〉医師より、現在、疼痛に対しロキソニンでの対応のため、少しでも現状維持ができればということに依頼された。

〈東洋医学的所見〉

夜間、特に痛みが増す時がある。

側臥位で軽減。食欲はないわけではなく、ただ好みの食事ではないので食べない時がある。

舌：淡白、白膩苔、斑嫩、怒張。脈：沈・数・虚（輪郭がない）足三里硬結、公孫軟弱、蠡溝軟弱、寒がり、言葉に力がない、顔に血の気がない。弱い時NRS=2、強い時NRS=5の波のある痛みであったが、NRS=1~2程度となり疼痛コントロールが以前よりできていた。

〈期間〉12月2日から1月20日まで全11回行う。

〈治療方法〉

使用鍼：直径0.12mm、長さ1.5cm（セイリン製5分-02番鍼）を使用し、刺入深度は切皮程度（0.1~0.4mm）を行う。足三里には直径0.18mm、長さ50mmを使用、刺入深度10mmの施術を行う。また、体調に応じて皮膚に接触するだけの鍣鍼を使用した。鍣鍼は補法を目的に金鍼、瀉法を目的に銀鍼を使い分けた。

使用経穴は毫鍼：陰陵泉、復溜、足三里、e-Q(47.5°C×3)：公孫、円皮針：Lt公孫を行う。

〈結果〉

鍼灸治療介入時、直後変化を問うも、疼痛コントロールができていた状態であったため、「特に変化が無い」とのことだった。

しかしながら、服薬効果が切れ始めるころになると、痛みが出現。(NRS=2~3)

治療回数を重ねて行く度に、痛みの出現する強さがマシになってきているとのことであったが、それ以外にも身体的変化として、歩いていても足が